



人との日々の出会い、関わり、つながりを大切に生きよう

「わたしはぶどうの木、あなたたちは枝」
～キリストにおける出会いとつながりを大切に生きよう～

ヨハネ福音書の 15 章をゆっくりひもときましょう。

わたしはぶどうの木であり、あなたたちは枝である。

わたしがあなたたちに話した言葉によって、あなたたちは既にきれいになっている。

わたしの内に留まっていなさい。そうすれば、わたしもあなたたちの内に留まっている。

ぶどうの枝が木に付いていなければ、枝だけで実を結ぶことはできない。

人がわたしの内に留まっており、わたしもその人の内に留まっているなら、その人は多くの実を結ぶ。

父がわたしを愛してこられたように、わたしもあなたたちを愛してきた。

わたしの愛に包まれて生きなさい。

わたしが語るのは、わたしの喜びがあなたたちのものとなり、

あなたたちの喜びが満ち溢れるためである。

愛する者のために命を捨てること、これ以上の愛はない。

わたしが命じることを行うなら、あなたたちはわたしの愛する者である。

あなたたちがわたしを選んだのではなく、わたしこそあなたたちを選んだのである。

わたしがあなたたちに使命を与えたのは、あなたたちが出かけて行き、

実をみのらせ、その実がいつまでも残るためである。

あなたたちがわたしの名によって父に願うことは、何でもかなえていただけるようになるためである。

あなたたちが互いに愛し合うこと、これがわたしの命令である。

わたしが父のもとからあなたたちに遣わす弁護者、すなわち真理の霊が来られるとき、

この方がわたしについて証しをなさる。またあなたたちも証しするであろう。

初めからわたしと一緒にいたからである。

教会を通してキリストのいのちにつながり、その尽きない泉からわたしたちの霊的生活は日々養われています。「JCNA」という言わば「キリストのぶどうの木」に連なるわたしたち会員に与えられている恵みにあらためて想いを巡らせましょう。お互いの出会い、交わりを通して「看護の愛」がどのように深められ、広げられてきているかを思い起こす時、キリストによってわたしたちに託された「使命の尊さ」も心に深く感じられるでしょう。このたび発足した「日本カトリック医療団体協議会」も「キリストの命」によって、わたしたちと医療界がより力強く導かれる恵みの場として成長していくことができますよう、共に願い協力し合ってまいりましょう。

「第1回日本カトリック医療団体協議会全国大会」の報告

同大会について「日本カトリック医師会誌 第48号」に医師会長の石島先生によるご報告が掲載されました。先生は協議会発足と大会開催まで中心となって進めてくださり、今後の活動に大きな期待を寄せておられます。JCNAの会員の皆様に、この会の内容を共有していただき、協力し合いながら意義あるものにしてゆきたいものと念じております。ご了解を得て、ここに全文を転載させていただきました。

第1回 日本カトリック医療団体協議会全国大会報告 石島武一

第1回日本カトリック医療団体協議会の全国大会が10月23日～24日に長崎全日空ホテルで開催された。これは日本カトリック医師会、同看護協会、同医療施設協会という日本のカトリック系の医療関連の3団体が合同で開いた記念すべき初の全国大会である。といっても開催については、医療施設協会会長病院である聖母病院が全体を統括し、聖フランシスコ病院が運営を担当し、実質的には医療施設協会が主体となって実行されたものである。参加者総数260人、医師会からの参加は21人と少数だったが、カトリックの医療団体としては空前の大規模な大会だった。

大会について述べる前に日本カトリック医療団体協議会の成立の経緯について簡単に説明したい。日本には上記3団体のほかに看護大学の集まりを入れると4つのカトリック系医療関連団体がある。それぞれ活発に活動しているが、相互の連絡はほとんどないのが実情だった。前医師会長の竹内先生はお互いの連絡をもっと密にしなければいけない、と前々から熱心に主張されていたが、連合への機運は訪れなかった。2006年7月、第42回医療施設協会全国大会が東京で開かれた時に連絡会を作る話が出、その年の12月に医師会と看護協会の代表が東京で集まって連絡会結成の意志を確認し合った。翌2007年5月、名古屋での看護協会全国総会の際に4団体の代表が集まって具体的な検討を行った。そこでは細部での問題はあったが連絡会を作るという原則では一致をみた。その後2回の話し合いのあと、5回目の2008年7月の東京での会合で名称を日本カトリック医療団体協議会とすることが決まり、規約も制定された。6回目の会合は2008年の9月にガラシア病院で開かれたが、そのとき、全国大会を2009年10月に長崎で開催することが決められた。同時に、カトリック司教協議会に公認の申請を出すことになった。ところが4団体のうち看護大学の団体はまだ公認がとれていないので却下され、やむなく他の3団体の名で再申請し、2008年11月6日にカトリックの公認団体としての認可が下りた。以上のような経過である。

この協議会の目的は会則にあるように、「3団体の自主性を尊重しつつ、3団体の連携を強化し、相互扶助を図るとともに、カトリック精神に則った医療・福祉の向上に努め、もって日本におけるキリストの福音の普及を目指す」ことにある。そのために、合同の大会、合同の研修会を一定間隔で開催し、医療倫理問題についての研究ならびに公的な発言を行う、などの活動を展開する。今回の第1回大会はその趣旨に沿って開かれたものである。

さて、前置きが長くなったが、今回の大会のテーマは「人に仕える医療」である。初日の開会式には長崎教区の高見三明大主教が挨拶された。ついで東大名誉教授、森亘先生の基調講演、「一人の病理医が考えた『いのち』とは」が始まった。先生はまず命についての価値観の多様性を認めた上で、命とは個人のものであると同時に社会のものであり、さらにそれを越える大きな存在に根源があると説かれた。そして患者、とくに死を迎える患者の心に響くのは医療者の言葉でなく、その奥にある人柄である。その人柄を高める要素として、教養、勤勉、真面目さ、思慮深さなど色々あるが、「信仰心」が占める比率がかなり高いとし、今の科学技術万能の風潮の中で心の問題の大切さを強調された。続いての特別講演は当会会員で長崎大学医歯薬総合研究科

長の山下俊一先生の「原爆被災と世界の被爆医療」だった。その中で先生は、長崎の原爆被災と永井隆博士の生き様を原点として原爆被災者の診療に当たってこられたこと、さらにチェルノブイリ被災者の実態とそこでの治療活動、そして今後も発生するであろう放射線被災への警告と対処法について話された。

初日の午後はシンポジウム、「終末期医療の倫理」で5人のシンポジストが発言した。最初は石島が終末期の多様性、植物状態の定義とその対応の諸相、終末期ガイドラインの問題点、司法による事前判断制度の可能性、教皇ヨハネ・パウロⅡ世の栄養・水の補給中止の禁止令などについて述べた。町野上智大学法学部教授は、司法による事前判断は無理で、医療人の判断で対応すべきだと主張。終末期医療は患者のためのものであり、患者の「最善の利益」を守ることが目的である。医療の継続にせよ中止にせよ、それを決めるのは患者自身であり、患者の意思が不明なら推定的意思と客観的判断を併せて考慮すべきとした。それをオープンな話し合いで決めれば、刑事訴追の可能性はなくなるだろうと言われた。ガイドラインについては医療者側の不満はあるだろうが、法が臨床現場を支配するのは好ましいことではないとの結論であった。聖フランシスコ病院ホスピス科看護師長の益富美津子氏は28年の看護師経験を基にした終末期患者の多様な面を話された。そして看護師の役割とは、患者とその家族をチームで支えることであるとし、「看護師がすべきこと、それは自然が働きかけるに最もよい状態に患者を置くこと」というナイチンゲールの言葉を引用された。名古屋第二赤十字病院MSWの黒木信之氏は救急病院での終末期医療の問題点は医療の効率化と患者・家族の満足感との相克であると指摘する。そして在宅で最後を迎える患者さんも徐々に増加し、MSWの仕事も在宅へシフトしてきたとのことである。討論の際、人生の終末を幸福に迎えるには何が大切かとの質問に、やはりお金ですよ、と答えたのが印象的であった。最後の、日本カトリック神学院院長の牧山強美師は植物状態の患者への栄養と水の補給中止に関するヨハネ・パウロⅡ世の発言は重い方のレベルの発言なので撤回されることはない、教皇の発言は尊重しなければならないと言われる。しかしあとの質問に対し、出来ないことはやらなくてよい、できるならやりなさい、と答えられた。また、何か工夫の余地がないか考える挑戦が必要ではないかも答えられた。

2日目の午前は横浜教区司祭の山口道孝師の「アジアの貧困、抑圧に苦しむ人々について」の講演で始まった。師は東南アジアの各国を廻り援助活動を続けている。その間にみた貧困層の人々の悲惨な生活を紹介し、貧困の原因は政治、宗教にあると指摘した。また上層部の腐敗・墮落も原因の1つである。対策として、経済援助も結構だが、教育、とくに女子への教育が大切だと説かれた。そして世界の人々が自分に無関係と考えないでほしいと訴えられた。午前の第2部は2つの実践報告で、藤沢市在住の瑞光のほり灸院院長の加藤弘美氏がホームレス支援の経験を話され、長崎市のさくらまちクリニックの酒井孝子氏が40年の看護師としての経験から看取りの問題について話し、さらに最近の若い人たちの性の問題について警鐘を鳴らされた。午後は慈恵病院理事長の蓮田太二先生がいわゆる赤ちゃんポスト、「こうのとりのゆりかご」の設立までを話され、同院の看護部長の田尻由貴子さんがその実践面について赤裸々な実話を紹介された。そして望まぬ妊娠に悩んでいる若い女性がいかに多いかを強調し、熊本以外にも、とくに関東で赤ちゃんポストを始める病院が出てきてほしいと訴えられた。

以上でプログラムの概要を紹介したが、各講師とも実に深い内容の話をされ、聞く方としては非常なエネルギーを必要としたが、それだけに本当に勉強になった2日間であった。なお、初日の夕方には国宝の大浦天主堂で高見大司教司式のごミサに与れたことはよい思い出であった。

ついでながら、高見大司教様と雑談の折、大司教様が永井隆の列福問題に非常に前向きであられることが分かった。医師会の方からこちらへのアプローチしてくださいよと言われ、大変勇気づけられたことを一言つけ加えさせていただく。

(本会会長)

第52回日本カトリック看護協会全国大会（金沢）のお知らせ

テーマ 人に仕える医療と看護 ～人との日々のお会い、関わり、つながりを大切に生きよう～

期日 2010年10月29日（金）・30日（土） 会場 金沢スカイホテル

10月29日（金曜日）

11:30～ 受付開始

13:40～ 講演Ⅰ「この指とまれ」 惣万 佳代子氏

10月30日（土曜日）

9:00～ 講演Ⅱ「観想と癒し～カルメルの霊性」 三上 和久師(カルメル会)

10:30～ 会員発表

大会参加費 15,000 円

ホテル宿泊費 シングル 7,500 円 ツイン 7,000 円

JCNA 2010 年度会費納入のお願い

新年度の会費をお願いいたします。会員のみなさまは「支部」に提出して、係の方は名簿とともに会費を「本部事務局」にご送付ください。どうぞよろしくをお願いいたします。

J C N A 本 部 役 員 会 報 告

■2009 年度 第 2 回 2009 年 10 月 22 日(木) 長崎ペンション南山手十番館

1.新ホームページのアドレス変更 <http://www.jcna.info/>

2. J C N A の 現 状 と 課 題。

・会員数 280 名で今年度予算を組んでいるが、先細り状態にある。

■2009 年度 第 3 回 2009 年 12 月 5 日(土) 東京・市ヶ谷

1.第1回日本カトリック医療団体協議会全国大会の報告 会員の参加が多く、成功裡に閉会した。各方面に感謝。

2. ホームページでカトリック医師会の HP とリンクしている。

J C N A が 何 を 目 指 し、何 を し よ う と し て い る の か、わ か る よ う に し た。

3. J C N A の 現 状 と 課 題

①経費削減の策を考えると、管理費で役員会の開催場所、そこにかかる役員の交通費の節約など。

②本部役員の新規等人材の発掘。

■2009 年度 第 4 回 2010 年 1 月 31 日(日) 東京・市ヶ谷

1. 2010 年度 の J C N A 年 間 目 標 患 者 と の 出 会 い で 様 々 な こ と を 学 び、そ こ で キ リ ス ト 者 を 見 た と い う 報 告 が 多 い。今、関わりが少ない。関わってもらえない愛不足から（反対）ばかりが生まれる。関わってくれる、大切にしてくれているという自覚がない。そこから犯罪が生まれる。テーマのように生きること、それがキリスト者の生き方、キリストの教えである。これを広めよう。

2. J C N A 全 国 総 会 (2011 年 度 の 会 期 ・ 2011 年 5 月 21 日 会 場 ・ 名 古 屋)